

METHOD FOR PROVIDING FIRST-AID TREATMENT INFORMATION

Patent Number: JP2002117190
Publication date: 2002-04-19
Inventor(s): TAGUCHI TATSUYA; OZAKI SHIGEHITO; KUNO AKIRA
Applicant(s): SANRYUUSHA:KK
Requested Patent: ☐ JP2002117190
Application Number: JP20000308591 20001010
Priority Number(s):
IPC Classification: G06F17/60; A61B5/00; G06K19/00
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To acquire suitable information required for carrying a user 5 to medical institutions 3, 7 and 8 by an ambulance car 4, giving first aid or applying treatment in the medical institution 8, where the user is carried in, when the user 5 has a spasm and loses consciousness.

SOLUTION: A first-aid treatment network composed of a control center 1, a fire-fighting organization 2 and plural medical institutions 3, 7 and 8 is constructed, first-aid treatment data are provided to a patient having the high possibility of spasm in each of medical institutions 3, 7 and 8 the control center 1 issues first-aid tags 9a, 9b and 9c recorded with first-aid treatment data or the like to the user 5 registered on the basis of his/her free will. Then, this method is provided for a dispatched ambulance car 4 or medical institution 8, where the user is carried in, to read the first-aid treatment data from the first-aid tags 9a, 9b and 9c by readers 4a and 8b when the user 5 has spasm and further for the medical institution 8, where the user is carried in, to acquire medical data on the user 5 by accessing a medical database 3a of the user's family medical institution 3.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(11)特許出願公開番号
特開2002-117190
(P2002-117190A)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード*(参考)
G 0 6 F 17/60	1 5 4	G 0 6 F 17/60	1 5 4 5 B 0 3 5
	1 2 6		1 2 6 Z 5 B 0 4 9
A 6 1 B 5/00	1 0 2	A 6 1 B 5/00	1 0 2 C
G 0 6 K 19/00		G 0 6 K 19/00	Q

弁理士 武山 峯和

The diagram illustrates the system architecture. At the top, a box labeled '利用者' (User) is connected to a '管理センタ' (Management Center) and three '医療機関' (Medical Institutions) labeled 3, 7, and 8. The '管理センタ' is also connected to a '行 政' (Government Office) and three '救急車' (Ambulances) labeled 4, 4a, and 4b. The '医療機関' boxes each contain a '処理装置' (Processing Device), '入力装置' (Input Device), '表示装置' (Display Device), and '読取装置' (Reading Device), along with a database symbol. The '救急車' boxes each contain a '読取装置' (Reading Device). The '行 政' box contains a '読取装置' (Reading Device). The '利用者' box is connected to the '管理センタ' and the '医療機関' boxes. The '管理センタ' is connected to the '行 政' and the '救急車' boxes. The '医療機関' boxes are connected to the '救急車' boxes. The '医療機関' boxes are also connected to the '読取装置' (Reading Device) in the '救急車' boxes. The '医療機関' boxes are also connected to the '読取装置' (Reading Device) in the '行 政' box. The '医療機関' boxes are also connected to the '読取装置' (Reading Device) in the '利用者' box.

【特許請求の範囲】

【請求項1】 救急医療を要する患者を医療機関に救急車で搬送する過程における応急処置や、救急医療を要する患者が運び込まれた医療機関における救急医療処置に必要な情報を提供する方法であって、管理センタと消防組織と複数の医療機関とからなる救急医療ネットワークを構成し、該管理センタと該消防組織に属する救急車と該複数の医療機関とを通信回線で結び互いに情報を交換するようにし、各救急車や各医療機関に読取装置を設置し、該管理センタは登録した利用者に対し、それぞれの利用者が発作を起こしたときに必要な応急処置データを、該読取装置により読み取り可能に記録した救急タグを発行するステップと、

救急タグを保持する利用者が発作を起こし救急治療を要する場合に、該利用者を収容した救急車あるいは医療機関において、該読取装置により該利用者の有する救急タグの記録を読み取り、該利用者に関する応急処置データを取り出すステップとを有することを特徴とする救急医療情報の提供方法。

【請求項2】 救急医療を要する患者を医療機関に救急車で搬送する過程における応急処置や、救急医療を要する患者が運び込まれた医療機関における救急医療処置に必要な情報を提供する方法であって、管理センタと消防組織と複数の医療機関とからなる救急医療ネットワークを構成し、該管理センタと該消防組織に属する救急車と該複数の医療機関とを通信回線で結び互いに情報を交換するようにし、各医療機関において医者が発作を起こす可能性の高い患者と判断した場合に、該医者が該患者に応急処置データを提供し、該患者が自ら申し込み救急医療ネットワークに登録するステップと、各救急車や各医療機関に読取装置を設置し、該管理センタは登録した患者（以下「利用者」と呼ぶ。）に対し、それぞれの利用者が発作を起こしたときに必要な応急処置データを、該読取装置により読み取り可能に記録した救急タグを発行するステップと、

救急タグを保持する利用者が発作を起こし救急治療を要する場合に、該利用者を収容した救急車あるいは医療機関において、該読取装置により該利用者の有する救急タグの記録を読み取り、該利用者に関する応急処置データを取り出すステップとを有することを特徴とする救急医療情報の提供方法。

【請求項3】 請求項1又は請求項2に記載した、救急医療情報を提供する方法であって、救急タグに記録する応急処置データを、発作を起こす持病の名称、発作で患者が表す症状、搬送すべき医療機関の診療科目、該利用者に対し緊急に処置すべきこと及び絶対に処置してはいけないことがある場合はその内容とし、さらに、掛り付けの医療機関の名称と電話番号と住

所とを記録した救急タグとしたことを特徴とする救急医療情報の提供方法。

【請求項4】 請求項1乃至請求項3に記載した、救急医療情報を提供する方法であって、管理センタのコンピュータは、救急医療ネットワークに登録した医療機関に関する医療機関データを記録した医療機関データベースを有するものとし、

救急タグに記載された掛かり付けの医療機関が救急の搬送先として適さない場合などに、該管理センタの該医療機関データベースに記録した医療機関の中から適切な医療機関の情報を取り出し、救急車にその情報を提供するステップを有することを特徴とする救急医療情報の提供方法。

【請求項5】 請求項4に記載した、救急医療情報を提供する方法であって、医療機関データベースの医療機関データが、それぞれの医療機関の名称と電話番号と住所、診療科目、特別な設備を有するか否かなどのデータであることを特徴とする救急医療情報の提供方法。

【請求項6】 請求項1乃至請求項5に記載した、救急医療情報を提供する方法であって、救急医療ネットワークに登録した各医療機関のコンピュータにはそれぞれの患者毎に、特殊体質の有無、既往症、検査記録、治療記録などの医療データを記録した医療データベースを有するものとし、

各利用者毎にそれぞれを特定する識別符号を付与し、これを各利用者発行する救急タグに記録しておき、他の医療機関からのアクセスであっても、該識別符号を提示してアクセスした場合に限り、その識別符号を有する患者の医療データにアクセス可能にしておき、掛り付けの医療機関以外の医療機関に発作を起こした利用者を運んだ場合に、運び込まれた医療機関がさらに多くの情報を得ることを求めて、該利用者の掛り付けの医療機関のコンピュータにアクセスし、該利用者に関する医療データを取り出すステップを有することを特徴とする救急医療情報の提供方法。

【請求項7】 携帯式の救急タグであって利用者が発作を起こしたときの応急処置に必要な応急処置データとして、発作を起こす持病の名称、発作で患者が表す症状、搬送すべき医療機関の診療科目、該利用者に対し緊急に処置すべきこと及び絶対に処置してはいけないことがある場合はその内容、さらに、掛り付けの医療機関の名称と電話番号と住所とを記録した救急タグ。

【請求項8】 請求項7に記載した救急タグであって、さらに必要なデータとして、利用者の識別符号を記録した救急タグ、利用者の名前と電話番号と住所を記録した救急タグ、利用者の識別符号と名前と電話番号と住所とを記録した救急タグ、のいずれかであることを特徴とする救急タグ。

【請求項9】 請求項1乃至請求項6に記載した救急医療ネットワークに登録した医療機関に関するデータであ

って、それぞれの医療機関の名称と電話番号と住所、診療科目、特別な設備を有するか否かなどの医療機関データを記録した医療機関データベース又は該医療機関データベースを記録した記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は救急医療システムに係わり、医師が発作を起こす可能性の高いと判断した患者を登録し、各利用者が発作を起こしたときの応急処置に必要なデータを記録した救急タグを発行しておき、利用者が発作を起こしたり気絶した場合など本人の意識が不明なときに、利用者が保持する救急タグから読取装置でデータを読み取り、利用者の掛り付けの医療機関を特定したり、利用者に対する応急処置に必要な情報を入手可能にし、さらに救急車の救急隊員が、利用者のいる場所の近くにあつて利用者の病状に適した医療機関に関する情報を受けたり、発作を起こした利用者が運び込まれた医療機関が、利用者の医療データを入手可能にするなど、救急医療に必要な情報を提供する方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来の救急医療システムでは、患者が発作を起こしたり気絶した場合など本人の意識が不明なときに、救急車を呼んで医療機関へ運び込んでいたが、患者の掛り付けの医療機関が近くにあつても別の医療機関へ運んでしまい、適切な救急処置ができない場合があつた。また、緊急な処置を要するにも係わらず、患者に関する情報であつて緊急時に必要とされるものがないため、改めてレントゲン写真を撮ったり血液検査を繰り返すなど余分な処置に時間を費やし、ときには患者の命にも関わる事態に至る場合もあつた。また、医療機関を識別する番号と患者を識別する番号とを合わせた識別番号を印字した識別カードを各患者に発行しておき、識別カードの記録から掛り付けの医療機関を読み出し、掛り付けの医療機関に搬送する発明も考えたが、患者が掛り付けの医療機関から遠く離れた場所で発作を起こしたときなど、掛り付けの医療機関に搬送することが適当でないときに、他の適当な医療機関に関する情報が入手できない問題があつた。一方、患者に診療カードを持たせ患者の医療情報を診療カードに記録しておく方法も考えたが、診療カードから患者に関する医療情報が簡単に読みとれる方法は患者のプライバシーの保護の観点から問題があつた。このような状態では発作を起こす可能性の高い人や老人などの活動範囲は狭まり、仕事が限定されたり家に引きこもりがちとなる。活動範囲が狭まり社会との係わりが少なくなる結果、肉体的な健康維持に支障が出たり、精神的な刺激が少ないため気が晴れずふさぎ込んだり気力をなくしたりする問題があつた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、上記した従

来の救急医療システムの欠点を除くためなされたものであつて、その目的とするところは管理センタと消防組織と複数の医療機関とからなる救急医療ネットワークを構成し、発作を起こす可能性の高い患者をその自由意志により登録し、各利用者に対しそれぞれの応急処置データを記録した救急タグを付与しておく。そして、利用者が発作を起こして意識が不明なときなどに、利用者が保持する救急タグから応急処置データを読み取り、利用者の掛り付けの医療機関を特定し搬送するとか、管理センタと連絡を取り患者のいる場所に近くて救急医療処置に適した医療機関に関する情報を得て、最も適した医療機関へ患者を搬送できるようにすることである。

【0004】また他の目的は、発作を起こした利用者が運び込まれた医療機関が、利用者が保持する救急タグから利用者の識別符号を読み取り、患者の掛り付けの医療機関のコンピュータにアクセスして、患者に関する情報であつて緊急に必要とされる情報、例えば患者の特殊体質の有無、既往症、服用薬、検査記録、治療記録などの情報を入手し、改めてレントゲン写真を撮ったり血液検査などをしなくて、すぐに適切な救急医療処置ができるようにすることである。

【0005】また他の目的は、診療カードに患者の医療情報を記録する方法の持つ、患者のプライバシーの保護ができないという欠点をなくし、救急タグには利用者と掛り付けの医療機関に関する情報と発作を起こす持病の名称、発作で患者が表す症状、搬送すべき医療機関の診療科目、応急に処理すべきことなど最小限にとどめ、救急タグに記録したデータは、救急車や医療機関に備えた読取装置を使い、救急隊員と医療機関の関係者のみ読み取ることを可能にすることにより、利用者のプライバシーを保護できるようにすることである。

【0006】また他の目的は、発作を起こす持病を持つ人や老人たちが安心して社会生活を送ることができるよう環境をつくり、それぞれが自分のやりたい仕事を持ち、それぞれが自分のやりたいことのできる社会とすることにより、肉体的にも精神的にも健康的な生活をおくることができるようになることにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は救急治療を要する患者を医療機関に救急車で搬送する過程における応急処置や、救急医療を要する患者が運び込まれた医療機関において適切な治療を施す場合に必要情報を提供する方法に係わるものであり、以下の各ステップからなる。あらかじめ管理センタと消防組織と複数の医療機関とからなる救急医療ネットワークを構成し、管理センタと各医療機関の有するコンピュータを互いに通信回線でつなぎ、さらに各消防車とも通信回線でつなぐ。また、消防組織の有する各救急車と各医療機関に読取装置を設置しておき、管理センタのコンピュータには、救急医療ネットワークに登録した医療機関に関する医療機関データベ

ースを作っておく。

【0008】各医療機関において医者が発作を起こす可能性が高い患者と判断した場合に、患者の求めに従い医者がその患者に関する応急処置データを提供するステップと、患者が自ら希望し自分の応急処置データを提示して救急医療ネットワークに登録するステップと、管理センタが各利用者にその掛り付けの医療機関に関する情報と共に応急処置データ等を記録した救急タグを発行するステップと、救急タグを保持する利用者が発作を起こし救急治療を要する場合に、その利用者を収容した救急車の救急隊員が、読取装置により救急タグに記録したデータを読み取り、応急処置を施しながら掛り付けの医療機関に搬送するステップと、

【0009】救急タグに記載された掛り付けの医療機関が救急の搬送先として適さない場合に、該管理センタの該医療機関データベースにアクセスして、適切な医療機関の情報を取り出し、救急車にその情報を提供するステップと、掛り付けの医療機関以外の医療機関に発作を起こした利用者を運んだ場合に、運び込まれた医療機関がさらに多くの情報を得ることを求めて、管理センタのコンピュータを経由して利用者の掛り付けの医療機関のコンピュータにアクセスし、利用者に関する医療データを取り出すステップなどからなる。

【0010】

【発明の実施の形態】以下本発明を図面に示す実施例に基づいて説明する。本発明に係る救急医療ネットワークは、管理センタ1と消防組織2と複数の医療機関3、7、8とからなる組織である。管理センタ1や消防組織2は単一の組織であってもよいし、複数の組織の集合体であっても構わない。これらの組織がそれぞれコンピュータを有し、それらのコンピュータを通信回線でつなぎ、管理センタの有するコンピュータには医療機関データベース1aと応急処置データベース1bを構築し、さらに管理センタ1には救急タグ発行装置1cを配置する。消防組織2の有する各救急車4には読取装置4aを配置し、各医療機関3、7、8には医療データベース3a、7a、8aをそれぞれ構築し、読取装置3b、7b、8bをそれぞれ配置しておく。

【0011】各医療機関3、7、8の医療データベース3a、7a、8aはそれぞれの有する患者に関する医療データをまとめて記録したもので、患者毎にその患者の名前、電話番号、住所、特殊体質の有無、既往症、検査記録、治療記録、及び発作を起こす患者に関する応急処置データ等の医療データを記録したものである。発作を起こす患者に関する応急処置データとしては、発作を起こす持病の名称、発作で患者が表す症状、搬送すべき医療機関の診療科目、治療に特殊な設備が必要な場合はその設備の名称、該患者に対し緊急に処置すべきこと及び絶対に処置してはいけないことがある場合はその内容などが考えられる。発作で患者が表す症状には、患者の呼

吸、脈拍、心臓の鼓動、発熱、意識の有無、口から泡を吹く、涎を出す、失禁する、苦しみ様子などに関する情報であって、発作の程度に軽度、重度、危険など段階があれば段階毎に記録する。

【0012】搬送すべき医療機関の診療科目については、例えば、患者の発作が軽度であれば内科、外科などの大きな分類、患者の発作が重度であれば神経内科、呼吸器内科、消化器科、循環器科などの小さな分類、発作が危険な段階で複数の診療科目の診療が求められる場合は、神経内科と神経外科、呼吸器内科と呼吸器外科など、同時に求められる複数の診療科目を記録する。各医療機関3、7、8の医療データベース3a、7a、8aには他の医療機関からはアクセスできないものとするが、例外的に、救急医療ネットワークを構成する他の医療機関からのアクセスであること、管理センタ1のコンピュータを経由すること、患者の識別符号を入力することを条件に、その識別番号を有する患者の記録に限りアクセス可能とする。

【0013】管理センタ1の有するコンピュータの医療機関データベース1aは、各医療機関毎にその医療機関の名称、住所、電話番号、診療科目、特別な設備を有する場合はその設備の名称などのデータからなるデータベースである。診療科目には内科、外科、小児科など大きな分類で診療を行っている医療機関の場合は大きな分類を、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、麻酔科など小さな分類で診療を行っている医療機関の場合は小さな分類を、総合病院のように複数の診療科目を有する場合は複数の診療科目をそれぞれ記録する。

【0014】管理センタ1の有する救急タグ発行装置1cは、利用者5に対し救急タグを発行する装置であって、応急処置データをコード化し二次元コード情報として、救急タグに印字し記録するタイプのものとした。そして、消防組織2の有する各救急車4に配置した読取装置4aと各医療機関3に配置した読取装置3b、7b、8bは、救急タグに印刷したコード情報を読取り救急処置データに再変換する機能を有するものとした。発行する救急タグはカード式救急タグ9aとし財布などに入れて持ち歩くものでよいが、これに限らず、ラベル張り付け形式として財布などに貼り付けるものや、ペンダント式救急タグ9bとかリストバンド式救急タグ9cなどにしておくなど、利用者5が所持しやすく救急隊員や看護婦などの介護者が発見しやすいものであればその形式は限定しない。

【0015】救急医療ネットワークは上記のように構成されており、以下その運営について説明する。医療機関3、7、8において、医者が患者を診察して発作を起こす可能性がある判断したときに、その患者に対してその旨の情報と共に救急処置データを提供する。救急処置データは上記したように、発作を起こす持病の名称、発

作で患者が表す症状、搬送すべき医療機関の診療科目、治療に特殊な設備が必要な場合はその設備の名称、該患者に対し緊急に処置すべきこと及び絶対に処置してはいけないことがある場合はその内容などである。救急処理データは文書に印刷して渡す方法もあるが、秘密厳守の要請からフロッピー（登録商標）ディスクなどに記録して渡すことが好ましい。さらに、特別なプログラムでデータを変換して記録すれば、他人は容易に記録したデータを読むことができなくなりさらに秘密保持の上では好ましい。

【0016】発作を起こす持病があると告げられ応急処置データの提供を受けた患者が、救急医療ネットワークに登録すると決めた場合に、本人の自由意志で管理センタ1に申し込みを行う。申し込みを受けた管理センタ1は、各利用者5に識別符号を付与すると共に、各利用者5に救急タグを発行する。救急タグにはその利用者5の識別符号、氏名、電話番号、住所、掛り付けの医療機関の名称、電話番号、住所と救急処理データを記録する。このとき緊急タグに利用者の顔の写真を印刷したり、顔の写真データとして入力しておくことと本人を確認する場合に便利である。またそのコンピュータに、各利用者5毎にその救急タグに記録したデータを記録した応急処置データベース1bを構築しておく、これは救急タグの再発行が必要になったときのためである。

【0017】次に、以上のデータベースや救急タグに記録した情報をどのように利用するかについて説明する。利用者5が発作を起こし意識不明なとき、ほとんどの場合は救急車4を呼ぶことになる。救急車4で駆けつけた救急隊員は利用者が保持する救急タグを読取装置4aにかけ、記録されたデータを読み出す。まず、発作を起こした利用者5が表す症状と発作の程度を救急タグに記載されたデータと比較し確認する。そして救急タグに記録された掛り付けの医療機関3の住所を見て、近くにあればそこに連絡を取って搬送する。掛り付けの医療機関3が遠い場合、休診で医者が不在な場合、発作の程度が重度又は危険な状況で掛り付けの医療機関3では手に負えない場合など、掛り付けの医療機関3に運ぶべきでない場合は、管理センタ1のコンピュータの医療機関データベース1aにアクセスし、搬送する医療機関として適したもののデータを手入手する。

【0018】医療機関の検索は、救急タグに記録された応急処置データの中の、搬送すべき医療機関の診療科目と治療に必要な特殊な設備の名称の記載をキーワードとして検索する。例えば、利用者5の発作が軽度であって、「軽度の場合は内科」と搬送すべき診療科目に記載されておれば、内科であればこの医療機関に運んでもよい。そこで、一番近い内科の医療機関7を選びそこに連絡を取って搬送する。次に、利用者5の発作が重度であって、「重度の場合は呼吸器内科」と搬送すべき診療科目に記載されており、さらに治療に必要な特殊な設備

の記載がある場合は、診療科目に呼吸器内科を有しさらに記載された特殊な設備を有する医療機関の中から、一番近い医療機関8を選びそこに連絡を取って搬送する。さらに、利用者の発作が危険であって、「重度の場合は呼吸器内科、呼吸器外科」と搬送すべき診療科目に記載されておれば、診療科目に呼吸器内科と呼吸器外科の両方を有する医療機関の中から、一番近い医療機関8を選びそこに連絡を取って搬送する。

【0019】掛り付けでない医療機関に利用者が運び込まれた場合に、運び込まれた医療機関8は利用者が保持する救急タグを読取装置8bにかけ、記録されたデータを読み出し、当該利用者の識別符号を確認する。そして、管理センタ1のコンピュータを経由して掛り付けの医療機関3のコンピュータを呼び出し当該利用者の識別符号を入力し、医療データベース3aの中から当該患者の医療データを取り出す。

【0020】上記実施例では、救急タグとしてデータを二次元コード化したものを印刷する例を記載したが、他にも磁気記録式カードやICメモ리카ードなどにデータを記録する方法を採用することもでき、上記した実施例にこだわらない。ICメモ리카ードなどの場合はさらに多くの情報、例えば、特殊体質の有無、既往症、検査記録、治療記録なども記録することが可能となり、利用者5が発作を起こしたときに救急タグから直接その利用者の個人情報入手することができるようになる。しかしこの場合は、救急タグから情報を読み取る者をあらかじめ限定し、守秘義務を有する決められた者だけが読み取り作業を行うようにするなどして、プライバシー保護に注意する必要がある。

【0021】行政が救急医療ネットワークに係わる他の実施例を説明する。もともと行政は消防機関として係わっているのであるがこれは別とする。救急医療情報の提供は公共性が高いので、行政が管理センタとして係わることも可能と考える。また、小さな行政を目指す観点から管理センタのすべてを行政が行うことに抵抗がある場合は、特に必要性の高いと考えられる老人医療サービスや障害者サービスとして補助的に係わるのが考えられる。老人医療サービスや障害者サービスの一環として行政6が係わる場合は、あらかじめ定めた年齢以上の人や障害者として認定を受けた人の申し込みを受け、官吏センタへの申し込みを行うなどの受付業務の一部を代行するとか、又は対象者の利用状況に応じて費用の負担を行うといった係わり方が考えられる。

【0022】

【発明の効果】本発明は、管理センタと消防組織と医療機関とからなる救急医療ネットワークを構成し、発作を起こす可能性の高い患者を登録し、あらかじめ救急タグを付与することにした。そのため利用者が発作を起こして意識が不明なときなどに、駆けつけた救急隊員が救急タグに記録された情報を読み出し、掛り付けの医療機関

を特定して搬送することが容易になった。また、患者の掛け付けの医療機関が救急の搬送先として適さない場合は、管理センタのコンピュータの医療機関データベースにアクセスし、救急タグに記録された応急処置データの中、搬送すべき医療機関の診療科目と治療に必要な特殊な設備の名称の記載をキーワードとして検索し、搬送する医療機関として適したもののデータを入手し、利用者のいる場所に近くて救急処置に最も適した医療機関へ利用者を搬送できるようにすることができた。

【0023】また、救急タグから利用者が発作を起こしたときに応急的に処置すべきことや絶対に処置してはいけないことに関する情報を読み取り、救急車で駆けつけた救急隊員や利用者が運び込まれた医療機関の医者達が、判断に迷うことなく応急処置をすることが容易になった。また、掛け付けの医療機関以外の医療機関に運び込まれた場合は、利用者が保持する救急タグから識別符号を読み取り、管理センタのコンピュータを経由して利用者の掛け付けの医療機関のコンピュータにアクセスして利用者の識別符号を入力し、利用者に関する情報であって緊急に必要とされる情報を入手し、改めてレントゲン写真を撮ったり血液検査などをしなくても、すぐに適切な救急処置ができるようにすることができた。

【0024】また、患者の診療カードに患者の医療情報を記録する方法の持つ、患者のプライバシーの保護ができないという欠点をなくし、救急タグには利用者と掛け付けの医療機関に関する情報と、応急処置に必要な情報のみに止め、さらに、救急タグにアクセスできるのは救急医療ネットワークに属する救急隊員と医療機関の職員に限定することにより、患者のプライバシーを保護できるようになった。また、発作を起こす持病を持つ人や老人たちが安心して社会生活を送ることができる環境をつく

り、それぞれが自分のやりたい仕事を持ち、それぞれが自分のやりたいことのできる社会とすることにより、肉体的にも精神的にも健康的な生活をおくることができるようになることができた。

【図面の簡単な説明】

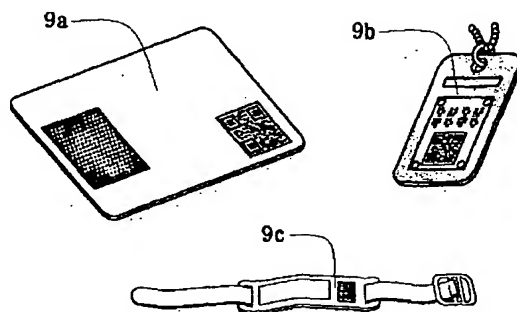
【図1】本発明に係る救急医療ネットワークの1実施例を示す構成図である。

【図2】救急タグの実施例を示す図である。

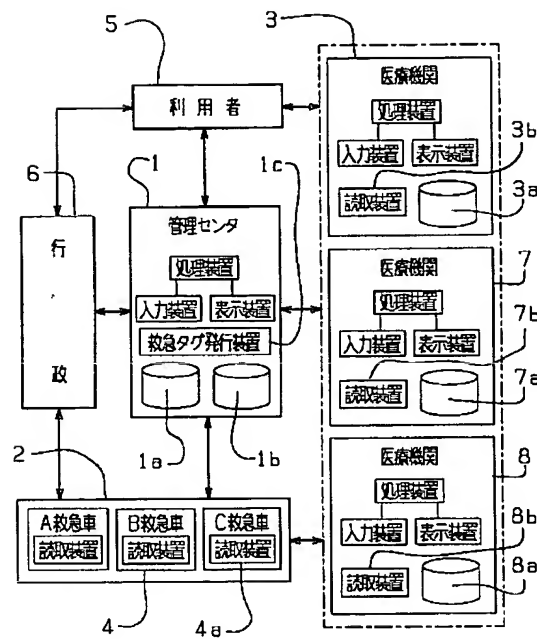
【符号の説明】

- 1 . . . 管理センタ
- 1 a . . . 医療機関データベース
- 1 b . . . 応急処置データベース
- 1 c . . . 救急タグ発行装置
- 2 . . . 消防組織
- 3 . . . 医療機関
- 3 a . . . 医療データベース
- 3 b . . . 読取装置
- 4 . . . 救急車
- 4 a . . . 読取装置
- 5 . . . 利用者
- 6 . . . 行政
- 7 . . . 医療機関
- 7 a . . . 医療データベース
- 7 b . . . 読取装置
- 8 . . . 医療機関
- 8 a . . . 医療データベース
- 8 b . . . 読取装置
- 9 a . . . カード式救急タグ
- 9 b . . . ペンダント式救急タグ
- 9 c . . . リストバンド式救急タグ

【図2】



【図1】



フロントページの続き

(72)発明者 久野 皓
愛知県岡崎市上六名町字宮前1番地 株式
会社三龍社内

Fターム(参考) 5B035 BB00 BC00
5B049 BB41 CC00 DD02 DD04 GG06